

FOR the children  
near

入場  
無料

UDXシアター

2011.06/11 (Sat)  
13:30 ~ 16:30

公益財団法人 成長科学協会 主催 第24回公開シンポジウム  
育児支援(ペアレントトレーニング)の理論と実際

▼ 演者

岩坂英巳

(奈良教育大学教授)

藤井和子

(まめの木クリニック ケースワーカー)

井澗知美

(中央大学大学院)

▼ 会場

UDXシアター／秋葉原UDX 4階

JR秋葉原駅 電気街口より徒歩2分  
つくばエクスプレス秋葉原駅 A3出口より徒歩3分  
東京メトロ日比谷線秋葉原駅 2番出口より徒歩4分  
東京メトロ銀座線末広町駅 1・3番出口より徒歩3分

各方面よりUDX 2階アキバブリッジへ  
2階より4階UDXシアターへの直通エスカレーター

INTRODUCTION

ごあいさつ

当協会の「心の発達研究委員会」が企画致します公開シンポジウムも、今回で第24回を迎えました。今年は会場を秋葉原に移し、小規模ながらも密度の濃いシンポジウムにしたいと思っております。

現在、何らかの発達障害を持つ子どもたちを、親や養育者がどう理解し対処していくかが課題となっています。

今回は「育児支援(ペアレントトレーニング)の理論と実際」をテーマに、いろいろな形で親子関係の改善の支援を実践されている3人の先生方にご提言をいただき、実際に行われているペアレントトレーニングがどのようなものか、またその取組み方法と有効性についてお話しいただきます。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

なお、当協会は、内閣府より公益認定を受け「公益財団法人成長科学協会」へ移行致しました(平成22年7月1日)。これまでの活動をさらに充実させていく所存ですので、引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



公益財団法人成長科学協会  
理事長：入江 實

プログラム

日時：平成23年6月11日(土)

テーマ：「育児支援(ペアレントトレーニング)の理論と実際」

司会：上林靖子、高橋桃子

13:30 開会あいさつ

13:35 「ペアレントトレーニングの現状と今後の課題」  
岩坂英巳(奈良教育大学教授)

14:10 「グループによる(精研式)ペアレントトレーニングプログラムの実践から」  
藤井和子(まめの木クリニック ケースワーカー)

14:50 〈休憩〉

15:10 「ペアレントトレーニングの有効性に関して」  
井澗知美(中央大学大学院)

15:50 質疑応答・ディスカッション

16:30 閉会



## ペアレントトレーニングの現状と今後の課題

岩坂英巳

ADHD（注意欠如・多動性障害）など発達障害への治療において、ペアレントトレーニング（PT）などの心理社会的治療は薬物療法と並んで重要であり、その有効性も実証されています。また、発達障害者支援法（2005）や特別支援教育（2007）のスタートによって、子育て支援や発達支援、さらに学校での特別な教育的支援の手立てとして、PTが注目されています。

本シンポジウムでは、まず演者が病院や大学センターで行ってきたPTについて、その内容（一部）と実施上の留意点を述べます。さらに、センターで実施している「PT指導者養成講座」などを通じて、各地で行われてきているさまざまなタイプ（幼児版、学校版、PDD版など）のPTの一端を紹介し、実施機関や対象者によって、どのような工夫が必要かを説明します。最後に、今後PTが発展的に展開されていくための課題等について報告します。

## グループによる（精研式）ペアレントトレーニングプログラムの実践から

藤井和子

今回報告するのは、国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部におけるADHD調査研究の際に、UCLAで1983年から実施されているプログラムに修正を加えて作成し、1999年から実施している家族支援プログラムです。発達障害を持つ子どもの反応は親にとっても理解しがたく、困惑し、焦燥感、自責、無力感をもたらします。そして親子とも自己価値観、自尊心を阻害し、行動や情緒の障害、ひいては虐待も生じかねません。プログラムは行動療法理論に基づいて、行動に焦点をあてた具体的な対処法です。親子間の不適切なコミュニケーションを、より適切なものにするを目的としています。

基本は10回のセッションから成り、毎回課題が提示され、ロールプレイで練習し、宿題を実行し、その結果を共有します。グループによる学び合いは、子どもの特性の理解を促進し、共感し、支え合い、孤立感からの解放といった効果があります。セッション終了後も自助グループとして継続されている例も多くあり、一定の効果を実感しています。

## ペアレントトレーニングの有効性に関して

井澗知美

ペアレントトレーニングの実施により得られた効果として、親としての効力感の改善、養育行動の改善、家庭における子どもへの対応の困難さの軽減が認められました。

そのような変化をもたらすプロセスのなかで、もっとも重要な概念として「振り返りによる発見」があると考えられます。これは、参加した親が主体的に課題に取り組む中で、自らを振り返り、様々な発見を自分で獲得することです。発見のなかのひとつには、子どもへの視点の変化、「困った我が子」から「困っている我が子」への変化も含まれています。親として困っている我が子をどのように援助できるかを考え、援助するためのスキルを身につけ、使いこなせるようになることで、先にあげた改善がもたらされるといえます。

プログラムを実施する側は、親は別の専門性を持ったパートナーであるという視点に立つことが求められます。治療者と親が同等の立場に立ち、協働して取り組むことが肝心です。

## 演者

### 岩坂英巳

いわさか ひでみ / 奈良県立医科大学卒業。奈良県立医科大学精神医学教室講師、奈良県総合リハビリセンター精神科医長などを経て、平成16年から奈良教育大学教授（特別支援教育研究センター）。

平成10～11年にUCLAに留学し、SSTやペアレントトレーニングを学ぶ。

研究テーマは発達障害への心理社会的治療。医学博士。

### 藤井和子

ふじい かずこ / 立教大学社会学部厚生福祉課程卒業。埼玉県児童相談所で児童福祉司として勤務、国立精神・神経センター精神保健研究所研究員を経て、「まめの木クリニック・発達臨床研究所」開設に伴い、児童精神科医、臨床心理士、ケースワーカーによるチーム医療のスタッフとして勤務。

家族支援を軸に子どもを取り巻く関係機関との連携・調整などの活動をしている。

### 井澗知美

いたに とみみ / 臨床心理士。国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部の研究員として児童に関わる臨床研究に携わる。2001年にUCLAにてペアレントトレーニングの研修を受ける。

2006年から中央大学大学院博士後期課程に籍をおき、中央大学心理相談室でペアレントトレーニングの有効性に関する臨床研究を行っている。

## 司会

### 上林靖子

かんばやし やすこ / 中央大学文学部教授。まめの木クリニック院長。児童青年精神医学会認定医。

元国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部長。

### 高橋桃子

たかはし ももこ / 臨床心理士。日本大学医学部附属板橋病院小児科および練馬光が丘病院小児総合診療科、杏林大学医学部附属病院小児科などで勤務。

主催 公益財団法人 成長科学協会  
企画運営 心の発達研究委員会  
〒113-0033 東京都文京区本郷5-1-16 NP-IIビル  
TEL. 03-5805-5370